



発行
 社会福祉法人 十字の園
 静岡県引佐郡細江町中川7220-11
 TEL <0534> 浜松 ㊞ 1251
 印刷 リード印刷 KK

定礎のことば

岡 本 明 夫

主が家を建てられるのでなければ、建てる者の勤労はむなし。主が町を守られるのでなければ、守る者のさめているのはむなし。詩篇 第一二七篇

御殿場に特別養護老人ホームが設立されるというまことに驚くべきことが現実となり、今日ここに定礎の式を行なうことができます。心を感謝しております。かえりみますと、この計画のはじまりは今から二年ほど前のことです。教会関係のある会合が信州でありまして、私共の教会からも数名が出席致しました。そのときに私は、鈴木理事長から、御殿場に特養ホ

どって参りましたけれども「主が家を建てられるのでなければ、建てる者の勤労はむなし。」「との聖書のお言葉のおりに、一切を神様にお任せし、私たちはほんとうに力弱いです。私たちはそのお言葉に従者ですけれども、できるだけのことをさせて戴きたいという祈りをこめて只今まで参りました。聖書はまた私たちに、「汝の隣り人を愛せよ」と教えております。私たちはそのお言葉に従って、この地域で一番手の届い



8月5日多勢の来賓をお迎えして定礎式が挙行されました

ていない、一番欠けている、そういう仕事をしたいと願って参りました。この北駿の地には、寒さの関係で特に手足の不自由なおとしが多いと承っております。そしてまた、そういう病人を長い間抱えている家庭では、充分に手も届かずいろいろの問題が起きてくるということをお伺っております。そういう方々をこのホームにお招きして、聖書のお言葉のとおりにならに仕えてゆこうという決意と祈りをこめているところでございます。

今日このように定礎の式が行なわれ、これから段々に建物が建設されていくと思えます。しかし、寝たきりのおとしより、その方々を自分の真実の隣り人として愛してゆくということ、これには大変なことが起きるだろうと私は思っています。私たちはこれから真剣勝負をしようというのであります。どうか多くの方々が祈りとお支えをもって私共の足らないところを、背後から力一杯に押し上げて戴き、積極的なご協力を賜わりますようお願い申し上げます。

(御殿場分園設立準備委員)

私たちはなぜ

人間の生命を大切に

——社会福祉事業の根拠——

西村 一之

戦後、交通災害のために死傷した人の数は、原爆による悲惨な死傷者の数を超えたという。自殺者の数は世界でトップだといふし、墮胎や人工中絶で生まれなかった——殺された——生命は数百万にのぼり世界一だといふ。食品添加物、農薬、また廃棄物による公害も学者には判っていたのに政治家、役人、業者は知らん顔のほっかぶりであった。しかし、これをひとの所為にしてよいだろうか。

日本人がひとの生命を大切にしているとはとても思えない。生命がこんなに大量に粗末にされていることはほかの国にはないのではないか。

人間の生命が大切だ、ということはどこからくるのであろうか。△自覚▽以外にはない。人間以外のものは自分が生きていくことを知らないで生きてい

にして生きていのではないだろうか。人間の生命はなぜ大切なのか、意識では知っていないが、実際には粗末にしているのはこの利己心の仕業である。

それでは高い意識とはどういうことか。たえずより善く生きようと努めることである。そのためにも、自分と他人の利己心と斗って、これを乗り越えていくことを学ばなければならぬ。今日の不幸とあやまりは、家庭でも学校でも(まして社会では)

利己心が何であり、これと斗うことによって動物から人間になつていくことを教育しなくなつたことである。身の廻り、たとえば車中、街路上、川や海辺、さらに世間のなかで悪いこと醜いこと迷惑になることがあつても、それを直そうとする人は少ないし、すすんで善いことをしようとする人はなお少ない。意識しても、ひとの目をおそれてそれに負けてしまう。

さて、もっと高い世界があ

る。それは本当か—偽かを目標に生きる生き方である。本当のことだと判つたら、それが目前の計算では得にならず、損をしそうにみえても、行なつていく精神である。もし偽りであるなら、ひとがどうあれ、利害にとらわれず批判し、妥協しないで闘う心である。ここにだけ、生命は守られ、大切にされる道はある。そして人間らしさが常に美しく守られる世界はある。ひとの心がもしここまで達したなら、最高の意識をのぼりつめたのであつて、自覚という方がふさわしい。

人間の生命はなぜ大切なのか、この問題について答を求めらるなら、このことを自覚した人々が黙々と行動し実践し、意識の低い人々にみせて知らせるのがもっとも適切だと思ふ。今日、ひとはだれでも生命の大切さを知つていて、実行しないのだから。

キリストのことばにいわく、八人が全世界をもうけても、自分の命を損したら、なんの得にならう△と。

(十字の園理事)



敬老の日、おとしりのご家族も招待して園遊会・模擬店で腕を振るのは職員

大成功の

チャリティーショー

有難い御殿場市社協・教委の後押し

御殿場中学校の体育館を会場にチャリティーショウが行なわれました。腹話術では超一流の春風イチローと、日本では珍しい指笛音楽の田村大三さん、芸大出身の数名の歌手も参加しての出演でした。

広い会場がほぼ満員になるほどの盛況で、はじめて聴く指笛の素晴らしい音色に、また人形のケン坊を相手の腹話術にすっかり魅了されてしまいました。幕あいには、十字の園理事長の鈴木生三氏と御殿場分園建設準備委員長横山巖氏のあいさつも行なわれて、これから御殿場に建設される特別養護老人ホームについて市民の皆様にご協力をお願いしました。

今回のチャリティーショウは、準備の期間が短く、実際に会員券を売ることができた期間は、十日間ほどしかありませんでしたが、御殿場教会を中心とする皆さんの大活躍によって約

積極的な後援をして下さり、有線放送を通じてPRをして下さったおかげで、会員券の売れ行きが良かった、という声もきかれました。また会場の準備や後片付けには、中学校当局のご厚意で、中学上級生が全面的に手伝って下さったことなど、大変に有難いことでした。



体育の日にはおとしよりも運動会でハッスル。(浜松十字の園で)

主は御心を為し給う

鈴木 享 三

昨年の正月、私は初週祈禱会の司会を仰せつけられ、「御殿場教会も来年は創立八十八周年を迎えるので、地域社会に奉仕する場が与えられますように。」と奨めて祈り合った。

そして第四日曜日の朝、岡本牧師より、御殿場に特別養護老人ホームを作りたいという趣旨で、話し合いのために浜松十字の園から鈴木理事長が近く来殿されると伺った私は啞然としてしまった。というのは、その二時間ほど前に朝日の天声人語で、特養ホーム建設の必要なこと、不幸な寝たきり老人を救うためには一万ベッド増設が目下の急務である。と訴えているのを読んだばかりであったから。

更に五日後の一月三十一日、地方新聞の富士タイムスに、トップ記事で「多い寝たきり老人」と題し、高冷多湿である御殿場地方には特にこの病人が多く、百人を超えていることが報道され、私は御殿場に特別養護老人ホームが是非とも必要であると痛感させられたのであった。

その後、鈴木理事長に度々お会いして、私たちが聖書の教えに従って愛の業を実践してこそ、地域社会にほんとうに奉仕できるのであることを教えられ、また再三浜松の十字の園を見学して、行き届いた設備、働いている寮母さん達の態度、真白なベッドに髪の毛の手入も充分に、艶々した顔で安らかに横たわっているおとしより達を見て、御殿場にどうしてもこの特別養護老人ホームを作らなければならぬという決意を与えられたのでした。

主は先ず最初に、勝又敏行氏の心の中にこの志を与えて、鈴木理事長に訴えさせ、更には、取るに足らぬ私ごとき者をも前述の体験を通して、十字の園御殿場分園建設の大業の一員としてお加えになったのです。

「あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起こさせ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神の良しとされるところだからである。」

(御殿場分園設立準備委員)

定礎式に至るまで

さつた勝又さんに、先ず深い感謝を捧げるのです。

○勝又敏行氏への感謝

御殿場に特別養護老人ホームを建設しようという計画の最初のきっかけは、小山町立老人ホームの元施設長であった勝又敏行さんの熱心なすすめによるものでした。勝又さんが老人ホーム施設長としての体験と、社会的責任感から、北駿地方に特に寝たきり老人が多いこと、そのためには特別養護老人ホームが御殿場地方に是非必要であることを痛感されて、既に特養ホームの経験を豊かにもつ浜松の十字の園に建設についての相談を持ち込まれたのです。

その後「教会を中心にしてキリスト教主義による施設を創設したい」という鈴木十字の園理事長の意向と勝又さんの意見が一致して、御殿場教会に「特養ホーム建設」について呼び掛けがなされた次第です。

私共は、この勝又さんの呼びかけがあるまでは御殿場に特養ホームを作るなどということも夢にも思っていませんでしたから、建設を最初によびかけて下

○二度の総会で建設を決定

よびかけを受けた御殿場教会では、二回、総会を開いて審議をした結果、全力を挙げて建設しようという決定をしました。もとより余りにも大きな仕事であり、いろいろと不安を覚えましたが、この特養ホームの建設が神様の命じ給うところであると信じて、私達はそれに従う決意をしました。そして神様の命じ給うところであれば、いかなる困難があっても必ず為し遂げることが出来るという決意と確信を次第に深めて参りました。

○設立準備委員会の発足

四十四年二月、鈴木十字の園理事長、勝又敏行氏、それに横山巖、鈴木亨三、豊島三四、岡本明夫の四氏を加えて設立準備委員会が発足。

○土地の確保に成功

はじめ勝又氏のすいせんした中里地区の土地は自衛隊の演習地に近いなどの理由により廃案

となり、土地の入手のため苦勞を重ねた末、四十四年八月、深沢地区の民生委員小宮山光雄氏のご厚意により、その私有地約七百坪を借地できることになり、更にその周辺の土地一千三百坪を五名の地主から借地できる見通しがついた。十一月二十四日、小宮山氏はじめ地主の八人、地元関係者、教会関係者など二十数名が浜松十字の園を視察、こういふ立派な施設が出来るのなら、という地主の私たちの考えがまとまって借地の交渉が最終的に決定した。

○自転車振興会より

四、一〇七万円

四十五年六月、既に補助金の申請をしてあった日本自転車振興会より四、一〇七万円の補助額が内定した旨の通知があった。

○定礎式挙行

八月五日、多数の来賓の参列のもとに盛んな定礎式が行なわれた。

あとがき

十字の園の近況をお知らせし、また御殿場分園建設の進み具合をご報告するために、かねてから機関紙の発行を計画しておりましたが漸く創刊号をお届けする運びとなりました。ご覧戴ければ幸いです。

特別養護老人ホームの建設のために、御殿場教会の皆さんを中心に非常な努力を傾けております。またこのために多くの方々のご協力、ご献金を賜りましたことを心から感謝申し上げます。今後もお祈りとご協力を切にお願い申し上げます。

なお、この号には募金状況のご報告を載せることができませんでしたので、次号に詳細をご報告させていただきます。



ご献金は下記あてに、
お願い致します。
☆ 静岡県御殿場市萩原477
御殿場分園設立事務所
横山 巖あて
☆ 静岡県引佐郡細江町
中川7220
社会福祉法人 十字の園
鈴木 生二あて